

高速バス名古屋⇔高岡・砺波線 最寄バス停沿線のご案内！

加越能バス本社前

雨晴海岸	国宝 勝興寺	万葉歴史館	高岡市 藤子F不二雄ふるさとギャラリー
			
<p>浜から眺める岩礁、富山湾越しに見る3,000m級の立山連峰の雄大な眺めは、四季それぞれに変化し、息を呑む美しさです。万葉の歌人、大伴家持は、この雨晴の風景をこよなく愛し、多くの歌を詠みました。雨晴海岸から氷見市の松田江の長浜までは「白砂青松百選」・「日本の渚百選」に選ばれています。源義経が奥州へ落ちのびる途中、にわか雨の晴れるのを待ったという「義経岩」があり、地名「雨晴」の由来ともなっています。</p>	<p>戦国時代、越中一向一揆の拠点となった寺です。中世城郭寺院の威勢を示し、国指定の文化財としては日本で8番目の規模を誇ります。勝興寺は、越中の西部を支配下におき、戦国時代の複雑な政治情勢の下、甲斐の武田氏や越前の朝倉氏等の戦国大名との関係を深めていきました。近世に入ると、勝興寺は藩主前田家、本願寺及び公家との関係を深め、越中における浄土真宗の触頭として近代にいたるまで権勢を振るっています。実ならずの銀杏、天から降った石、水の涸れない池などといった勝興寺に伝わる七不思議が有名です。</p>	<p>万葉歴史館は、万葉集の代表的歌人であり編者ともされる大伴家持にちなんで作られた博物館です。かつて大伴家持が政務をとった国庁跡にほど近い、眺望のきく場所に万葉歴史館があります。「ふるさとの万葉」をテーマに、映像や音で立体的に構成された常設展や、新しい視点で万葉ロマンを展開する企画展、万葉植物を配した庭園などを楽しむことができます。豊富な文献資料をそろえた万葉研究のメッカともなっている場所です。</p>	<p>ドラえもんをはじめ、数多くの名作を生み出した、日本を代表する漫画家である藤子・F・不二雄は、その少年時代を高岡で過ごしました。「漫画家になりたい」という夢を育んだここ、ふるさと高岡での足跡をたどりながら、たくさんの原画を通して藤子・F・不二雄の「まんが」の原点や作品の楽しさ、おもしろさに触れることができるギャラリーです。</p>

富山湾（世界で最も美しい湾クラブ）

<p>富山湾が、ユネスコが支援する「世界で最も美しい湾クラブ」に平成26年10月に加盟しました。雄大な立山連峰を望む自然環境と、漁業・工業・商業・観光などの経済活動がバランスよく共存する点が評価された結果と思われます。この素晴らしい環境は、標高3,000mの立山連峰から深さ1,000mに至る富山湾まで、高低差4,000mの特異な自然環境があつてのものですが、崩れる山や氾濫する川を治め、海の生態系を守る定置網漁を編み出し、日本海側唯一の商船高専を誘致して海に生きる人材を育ててきた、先人たちの不断の努力があつてこそ守られた宝物です。</p>

高速バス名古屋⇄高岡・砺波線 最寄バス停沿線のご案内！

高岡駅前

<p>高岡大仏</p>  <p>日本三大仏に数えられる高岡大仏は、地元の銅器製造技術の粋を集め、1907年より26年の歳月をかけて完成したものです。はじめはおよそ800年前、承久の乱をさけて越中に入道した源義勝が木造大仏を造営したことだといわれています。その後何度も荒廃や焼失といった危機にありましたが、人々の願いにより再建を繰り返し今の形となっています。出来栄が素晴らしいことから、日本一の美男とも呼ばれ銅器日本一の高岡の象徴的存在で愛され続けています。</p>	<p>金屋町（千本格子の家並）</p>  <p>高岡でも最も古い町で、1609年、加賀藩主前田利長が開町まもない城下町高岡の繁栄策として、鑄物造りを奨励したことから、高岡鑄物発祥の地である金屋町は大いに栄えました。今も格子造りの家々が軒を並べ、この昔懐かしい雰囲気のあるまち並みは、映画やテレビの舞台としても登場しています。およそ500mにわたって続く石畳の道と格子造りの古い家並みが見事に調和し、一帯は明治・大正時代を彷彿させ、今でも美しいたたずまいを見せています。2012年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。また、ここでは鑄物の製作体験ができる工房や錫アクセサリー作りが体験できるお店もあり、高岡の伝統工芸を直に味わうことができます。</p>	<p>山町筋（土蔵造りの町並）</p>  <p>市街地に600m続く山町筋は、商家の土蔵造りの家が建ち並ぶ歴史あるまちです。山町筋は加賀藩前田利長が高岡を発展させようと近隣の城下町から町人を招いて住ませた町であり、現在もその伝統が息づく町として知られています。御馬出町、守山町、木舟町、子馬出町と続くかつての北陸道に残る土蔵造りの家は、1900年の大火後の明治から昭和初期にかけて建造された優れた防火建築です。重厚かつ繊細な意匠をもつ土蔵造りの町家を中心に、洋風建築等の伝統的建造物が建ち並び、「伝統的建造物群が全体として意匠的に優秀なもの」と評価され、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。毎年5月1日の高岡御車山祭では、これらのまち並みを背景に山車が練り歩きます。</p>	<p>古城公園</p>  <p>高岡市街地のほぼ中心に位置するこの公園は、加賀前田家二代当主前田利長が築いた高岡城の城跡を、明治以来公園として開放したものです。1615年の一国一城令により廃城となりましたが、美しい水濠や土塁は残され、約21万平方メートルの広大な城跡公園となり、四季それぞれに鮮やかな自然美を見せてくれます。公園内には、工芸都市高岡ならではの芸術の森や博物館、動物園などがあり、豊かな自然とともに、心なごむ憩いの場として人々に愛され続けています。桜の名所としても知られ、高岡市街の散策、観光にぴったりの人気スポットです。</p>
---	--	--	---

<p>高岡御車山会館</p>  <p>ここでは重要有形・無形民俗文化財「高岡御車山祭」の御車山を通年で観覧できるほか、4Kの高精細画質シアターでの祭の準備から祭礼当日の追体験や、モーションキャプチャーの技術により、体の動きに合わせて「車輪」を動かす映像体験ができるなど、どなたでも高岡御車山祭をよりリアルに体感することができます。また館内には高岡土産を取り揃えたショップやMade in Takaokaをテーマにしたカフェなど、他にも楽しめる要素が盛りだくさん。是非高岡の伝統と歴史を体験できる新スポットです。</p>
--



高岡市イメージキャラクター

高速バス名古屋⇄高岡・砺波線 最寄バス停沿線のご案内！

イオンモール口

国宝瑞龍寺	前田利長公墓所	おとぎの森公園
		
<p>壮大な伽藍配置様式の豪壮にして典雅な美しさに圧倒されます。加賀藩二十万石の財力を如実に示す江戸初期の典型的な建造物です。高岡の開祖前田利長の菩提寺、曹洞宗の名刹です。3代藩主前田利常の建立で、1997年に山門、仏殿、法堂が建造物として国宝に指定されています。また総門、禅堂、大庫裏、大茶堂、回廊三棟が重要文化財として指定されており、江戸初期の禅宗寺院建築として高く評価されています。</p>	<p>高岡の町を開いた加賀藩第二代藩主前田利長の墓所です。菩提寺である瑞龍寺から「八丁道」という石灯籠が続く道の先に小さな森があり、そこに大名の墓としては日本一といわれる高さ11.9mの石塔があります。石塔下部の戸室石で造られた基壇は、約250平方メートルの三層基壇となっており、側面には狩野探幽下絵とされる130枚もの蓮華図文様が彫刻されています。鳥居があり、堀と石柵で囲まれた墓所は天皇陵かと思えるほど立派なつくりです。平成21年に石川県金沢市の「前田家墓所」と共に「加賀藩主前田家墓所」の名称で、国の史跡として指定を受けました。</p>	<p>「ドラえもん」のキャラクターたちがいることで有名な高岡おとぎの森公園です。「自然と遊び、自然に学び、友とふれあう」をテーマに、子どもたちの健やかな成長と緑豊かな活動の場を目指して造られました。千保川を中心とした親水空間、レクリエーション活動やイベントにも対応可能な花と緑につつまれた多目的広場、自然の生態系を遊びながら学べる豊かな森など、園内の各施設を有機的に連携させています。公園内には高岡出身の漫画家藤子・F・不二雄氏の代表作「ドラえもん」のキャラクター像があり、のび太達の遊び場となっている空き地がここに再現されていることでも大人気！子どもから大人まで、地域住民の憩いの場として利用されている公園です。</p>

高速バス名古屋⇔高岡・砺波線 最寄バス停沿線のご案内！

戸出四丁目



御旅屋門	恒性皇子の墓	弓の清水
		
<p>戸出御旅屋は、加賀前田家第3代当主の利常公が、鷹狩りなどの際に利用するために造営した藩営の宿舎です。5代綱紀公のころまで使われていましたが、その後十村(大庄屋)を務めていた川合家に譲られました。現在は門のみが残っており、保存修理が図られています。</p>	<p>恒性皇子は鎌倉時代末、倒幕運動を繰り広げた後醍醐天皇の皇子で、元弘の変で1332年、後醍醐天皇が隠岐に流されたとき、皇子は越中の二塚に配流になっていました。しかし、翌年隠岐を脱した後醍醐天皇が再び倒幕ののろしを上げると、恒性皇子を中心に越中の宮方が勢力をのばすことを恐れた幕府は、越中守護の名越時有に命じて悪皇子宮(幽閉した館跡の所在地)に幽閉し、恒性皇子を殺害しました。長い間その旧跡は不明でしたが、1909年、東宮殿下(大正天皇)北陸行啓に際して宮内省の調査が行われ、皇子の御陵墓として裁可されました。二塚地区には、ここが終焉の地となった恒性皇子にまつわるいくつかの史跡があり、皇子の陵墓も守られています。</p>	<p>この地は1183年、木曾義仲が平家一族と白兵戦を繰り広げた古戦場としても知られ、喉の渴きを潤すために家臣のすすめで、弓でがけ下に矢を射ったところ、そこから清水が湧き出たと伝えられています。これが弓の清水という名前の由来にもなっています。この清水はどんな日照りの時も枯れたことがなく、また、病気の人もこの水を飲むと治ると言い伝えられています。こんこんと湧き出る水は、源平の歴史を今も思い起こさせてくれます。</p>

高速バス名古屋⇔高岡・砺波線 最寄バス停沿線のご案内！

砺波市役所前

大牧温泉



清流庄川の河畔にあり、交通手段は小牧ダムからの遊覧船のみという秘湯中の秘湯。峡谷の岸壁に佇む宿からは、四季折々の峡谷美を一望でき、とくに雪景色は見事。絶景を望む露天風呂からは、カモシカやタヌキに出合えることもあるとか。日本の百名湯にも選ばれた大牧温泉は自然と調和し、何も無い贅沢な空間が静かにゆったりと過ぎてゆく心安らぐ温泉です。

庄川遊覧船



四季折々の景観を眺めながらの湖上遊覧のひと時は心が和みます。なかでも、新緑や紅葉の季節はひととき美しく、絶景に心を奪われること請け合い。庄川峡の小牧ダムから大牧温泉の間を約1時間かけてゆっくり船で往復すれば、湖面から見る山々の美しさに身も心も癒されます。また、短時間で遊覧船を気軽に楽しめるショートクルーズもあり、カップルでもファミリーでも、シチュエーションに合わせて遊覧船を楽しむことができます。

庄川水記念公園



水と緑に癒され楽しみたいなら、ここ水記念公園は最適なスポット！名物の大噴水は迫力満点！庄川の観光の拠点となる施設で、豊かな水と緑の景観を生かした遊歩道や水資料館（アクアなないろ館）や美術館など、地域の特色を生かした施設が整備され、ゆったりとした空間の中でたっぷりと楽しむことができます。また、ウッドプラザでは特産のゆずソフトや自家焙煎コーヒーが人気！デッキには、庄川清流温泉を使った「足湯」もあり、ファミリーやカップルでのんびり楽しめます。

井波彫刻



瑞泉寺の門前町として発展した井波にとって、切っても切れないのが「井波彫刻」です。その歴史は230余年。火災で焼失した瑞泉寺の再建のため、京都より招聘された彫刻師の教えを受けた井波の宮大工たちが、その技術を受け継ぎ進化させ、今日の井波彫刻文化の礎を築きました。現在井波の町には300名近くの彫刻師が居住し、通りには彫刻工房が軒を連ね、槌音を響かせています。井波彫刻の特徴は驚くべき精緻さにあります。職人たちは200本以上の彫刻刀、ノミを巧みに使い分け、木塊に繊細に魂を吹き込んでいきます。その技法は高く評価され、地名入り団体商標に登録されるとともに、国指定の伝統的工芸品にも認定され、全国にある社寺や山車に井波彫刻の技術が用いられるなど、富山県を代表する工芸品となっています。

井波瑞泉寺



広々とした境内に歴史を感じさせるたたずまいの瑞泉寺は、一歩足を踏み入るとその格調高い風格に包まれます。彫刻の町井波の寺院らしく、町の彫刻師たちの鑿（のみ）を打つ音がどこからともなく聞こえてくる境内では、本堂をはじめ山門や宝物殿、庭園や茶室など、注目すべき見どころが満載です。見事な彫刻が随所にみられる瑞泉寺の中でも、ひととき目を引くのが太子堂の彫刻の数々。見るだけで圧巻の彫り物の細工は繊細で美しく、先人の偉業に驚かされます。境内を彩る桜や藤や紅葉など、季節ごとに美しい顔を見せる庭園や木々の息吹は、訪れる人を愉ませてくれます。

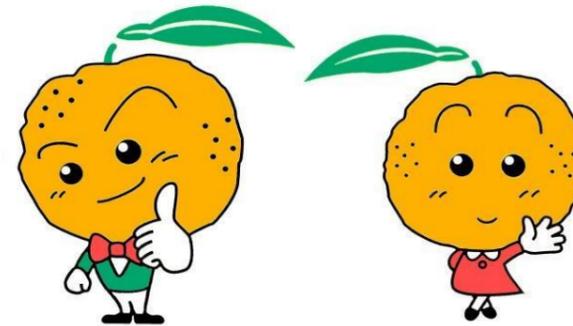


砺波市イメージキャラクター
「チューリ君」「リップちゃん」

高速バス名古屋⇄高岡・砺波線 最寄バス停沿線のご案内！

砺波駅南

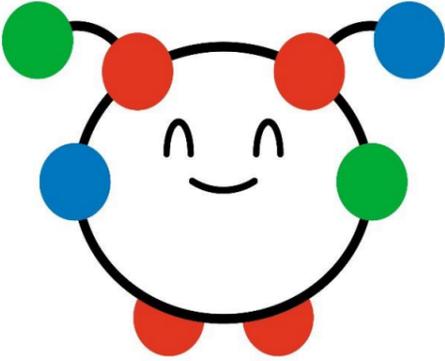
散居村ミュージアム	砺波市出町子供歌舞伎曳山会館	チューリップ公園	四季彩館
			
<p>心癒される水辺の空間。散居村の中に風情ある雰囲気醸し出すこのミュージアムは、静かな水辺と豊かな緑に囲まれた4棟の建物で構成されています。カインヨと呼ばれる屋敷林に包まれた敷地内には、散居景観の素晴らしさを感じて学べる「情報館」、昔ながらの暮らしを体験できる「伝統館」、伝統的家屋の新しい居住スタイルを提案する「交流館」、砺波地域の民具を展示する「民具館」があり、散居景観や伝統文化の魅力にふれることができます。</p>	<p>200年以上の歴史をもつ出町神明宮の春の祭礼。子供役者がきらびやかな衣装をまとい、歌舞伎を演じます。曳山上の舞台で演じるのが特徴で、このタイプは全国で8ヶ所(不定期は除く)しかありません！なかなか見られない貴重なものといえるでしょう。曳山は、西町・中町・東の3基があり、普段は砺波市出町子供歌舞伎曳山会館に展示されています。中町の金・銀・朱を施した豪華さ、東の金色絢爛としたきらびやかさ、西町の彫刻美を主体とした造りは、それぞれ違った趣。子供歌舞伎上演中の子供役者の移動はすべて肩車で行われ、地面に足をつけさせないきまりもあってか、子ども役者の晴れ舞台をぜひご覧ください！</p>	<p>砺波市特産で市の花でもあるチューリップなどをテーマとした四季折々の花を楽しむことのできる都市公園です。トルコ調の「ヤロバの泉」から北門を抜けると7.0haの公園が広がり、目の前には公園のシンボルのチューリップタワーがあります。タワーの上階からは大花壇など公園内を一望することができます。春には650品種250万本のチューリップが、夏には色鮮やかなカンナが咲き誇り、訪れる人々を楽しませます。毎年春の「チューリップフェア」、夏の「カンナフェスティバル」、冬には「チューリップ公園KIRAKIRAミッション」など様々なイベントも開催されます。公園内外には日本最大級の五連水車をはじめ、チューリップ四季彩館、美術館、郷土資料館、中嶋家などがあります。</p>	<p>限定チューリップソフトが人気のチューリップ四季彩館。ピンク色でかわいいソフトクリームは、大人も子どももみんな大好き！砺波チューリップ公園東側に隣接する当館は、大きなガラスのアトリウムの中に楽しみがいっぱい詰まっています。チューリップの不思議と出会うミュージアム、四季を通してチューリップが可憐に咲くスクエア、四季折々の花が楽しめるテラスの他、各種イベントに利用できるホール、ミュージアムショップ、カフェなど充実しています。ミュージアムでは、チューリップの歴史や文化を紹介するコーナーがあり、パソコンを使ったぬり絵等が体験できます。</p>



砺波市イメージキャラクター
「ユズ太くん」「ユズ香ちゃん」

高速バス名古屋⇔高岡・砺波線 最寄バス停沿線のご案内！

城端サービスエリア

<p>薪の音</p>  <p>ぬくもりがあってどこか懐かしい、里山のオーベルジュ「薪の音」。田園風景が広がる里山にひっそりとたたずみ、1日3組限定で宿泊できるおもてなしの宿です。心地良い風、小鳥のさえずり、木々の緑…穏やかな空間が旅の疲れをそと癒してくれます。 楽しみは評判の高い夕食。舌で味わい目で楽しむ。地元新鮮な素材が美しい一皿に姿を変え、訪れる人を感動させてくれます。そして待ち遠しいのは朝。清々しい空気を吸い込んで心もカラダもリフレッシュしたら、待ちに待った朝ご飯。かまどで炊くつやつやのご飯に、地元の食材をふんだんに使ったお惣菜。澄み切った空気の中でいただければ極上の幸せです。</p>	<p>城端クライミングセンター</p>  <p>桜ヶ池クライミングセンターは、南砺市城端の山あい位置する人造湖「桜ヶ池」の近くにあり、毎年 JOCジュニアオリンピック大会が開催される全国でも屈指の本格的なコース(可動人工壁2面、屋内練習場7面)が用意されています。屋根が有るので雨天の使用も可能です。</p>	<p>アニメの会社</p>  <p>南砺市城端を中心に、富山県内の実際の景観や建物をモデルとした美しい町で繰り広げられる青春恋愛物語。2008年にテレビ放送されると高い評価を獲得し、城端では様々な観光タイアップが行われました。現在でも「ご当地アニメ」の代表格として知名度が高く、根強い人気を維持しています。「true tears」制作前に西村純二監督がピーエーワークス本社を訪れた際、その町並みに感動したことから舞台モデルに選ばれました。越中の小京都とも呼ばれる町は、アニメの聖地としても見どころが満載です。</p>	<p>城端曳山会館</p>  <p>一目見ればその美しさに心奪われる、城端の曳山。伝統の城端塗りの粋を尽した華麗にして荘厳な曳山の姿は、広い室内に常時展示されており、訪れる人々の心を惹きつけてやみません。館内は数分ごとに照明が切り替わり、哀愁を帯びた庵唄を耳にしなが、祭りの夜を疑似体験できます。またロビーでは、曳山祭りの様子を撮影したビデオが放映されており、情緒あふれる祭りの雰囲気も楽しむことができます。</p>
<p>じょうはな織館</p>  <p>一歩足を踏み入ると、そこは昭和初期を思わせるレトロな空間。小京都城端の中心地にたたずむこの建物は、城端に伝わる絹織物の伝承と交流の場。伝統を引き継ぐ機織(はたお)りの工房見学や体験、オリジナル織小物などを販売するショップ、落ち着いた雰囲気の喫茶、ギャラリーがあり、充実した時間を過ごすことができます。2階の体験スペースでは、広々とした明るいスペースに今昔の機織り機が並びます。なかなか見ることのできない大小の機織り機。少しずつ生地が形になっていく様子は感動すらおぼえます。</p>	<p>善徳寺</p>  <p>風情ある町の中で格調高い雰囲気を出している善徳寺は、今から約530年前に本願寺第8代 蓮如上人(れんによしょうにん)によって開基されました。現在は、東本願寺(真宗大谷派)の城端別院となっています。浄土真宗の開祖、親鸞聖人直筆の「唯信抄」をはじめ、什宝物・法宝物・古文書など、約1万点の寺宝の一部が常設展示されています。春は樹齢370年といわれる糸桜が咲き「しだれ桜祭り」が行われ、普段は公開されていない式台門や大納言の間・書院がある御殿などを見学することができ、また7月の虫干法会では、蓮如ゆかりの品々や前田家から寄進された寺宝が公開されるので必見！</p>	<p>土蔵群「蔵回廊」</p>  <p>風情ただよまち並みで目を引く、板張りの趣ある建物。4つの蔵が回廊で結ばれ、その脇には雰囲気のある小路が通ります。曳山会館に直結している館中に入れば、天窓からのあかりに包まれた真っ白な蔵の美しさに感動！回廊をたどりながら4つの蔵をめぐる、土蔵そのものが展示品となっているため、建物の構造や景観の美しさを堪能できます。また、城端の歴史や文化、先賢の功績などの展示品の数々はみごたえ十分。この土蔵群は、1903年ごろに銀行家の野村利兵衛氏が自宅とともに建造したもので、第2次世界大戦後に住宅は解体されましたが、残された土蔵は保存・活用するため展示施設として改修されました。</p>	 <p>南砺市イメージキャラクター 「NANTOKUN」</p>